

Date

No.

<p>2 海上眺望芙蓉峰 伊豆初春萬里天 午餐大喜蟹羹筵 駿湾徐渡載車船 白雪芙蓉峰在眼前</p>	<p>海上にて芙蓉峰を眺望す 伊豆初春万里の天 午餐大いに喜ぶ蟹羹の筵 駿湾徐るに渡る車を載する船 白雪の芙蓉峰眼前に在り</p>
<p>4 客懐 月照虚窓杯酒寒 僑居十載獨長歎 歸心切切一燈下 隔壁弦歌徹肺肝</p>	<p>客懐 月は虚窓を照らして杯酒寒し 僑居十載独り長歎 歸心切切一灯の下 壁を隔つる弦歌肺肝に徹す</p>
<p>10 下小網代浦川 深緑一山都保全 孤行幽谷到清洲 有人借問向何處 答曰吾将見酒仙</p>	<p>小網代浦川を下る 深緑の一山都て保全せらる 孤り幽谷を行きて清洲に到る 人有り借問す何処に向かうやと 答えて曰く吾將に酒仙に見えんとす</p>
<p>12 幽境所懐 森森絶境立溪邊 漫聽瀨聲知石泉 遠望奇峰想今古 歸鴉三兩夕陽前</p>	<p>幽境所懐 森々たる絶境溪邊に在り 漫るに瀨声を聴きて石泉を知る 奇峰を遠望して今古を想う 歸鴉三兩夕陽の前</p>
<p>15 閑日 幽庭寂寞洗塵胸 石甃苔青花影濃 閑日春光正清淨 坐聞鳥語午時鐘</p>	<p>閑日 幽庭寂寞塵胸を洗う 石甃苔青く花影濃なり 閑日春光正に清淨 坐るに聞く鳥語午時の鐘</p>
<p>17 春光 江邊胡蝶兩三翔 處處梅花復郁香 潑灑水光風漸颺 芙蓉白雪映朝陽</p>	<p>春光 江邊に胡蝶兩三翔 處處梅花復郁と香る 潑灑たる水光風漸颺なり 芙蓉の白雪朝陽に映す</p>
<p>19 清洲城 清洲街巷雪華寒 白亞城頭映赤欄 武烈織豊稱霸處 當年懷古足波瀾</p>	<p>清洲城 清洲街巷雪華寒し 白亞の城頭赤欄映す 武烈の織豊覇を稱まじ如 當年懷古すれは波瀾足る</p>

(右の添削稿には随処に古田先生批評稿の表現が採り入れられている)